年頭所感

廃棄物･リサイクル事業の新たな発展をめざして

環境省 大臣官房廃棄物･リサイクル対策部長　谷津 龍太郎



新年明けましておめでとうございます。平素より廃棄物・リサイクル行政の推進にご支援をいただき、心から御礼申し上げます。廃棄物・リサイクル事業に携わる皆様にとって、平成22年が新たな発展の年となるようご祈念申し上げるとともに、環境省としても全力で取り組んでいく決意を新たにしているところです。

さて、現在、我が国の経済社会は、歴史的に見ても大変難しい厳しい状況にあります。加えて、国際的な資源価格の大きな変動もあって、廃棄物・リサイクルを取り巻く状況は大きく変化しており、行政としてもこうした状況の変化に迅速かつ適切に対処していかなければなりません。

ご承知の通り、世界の主要国は今の経済的苦境から一日も早く脱却するために、「環境」を鍵として経済の立て直しを図ろうとしています。資源・エネルギー小国の日本としては、廃棄物・リサイクル技術をはじめとする我が国の優れた環境技術を積極的に活用しながら、「もったいない」に象徴される環境にやさしい伝統文化を再認識して、低炭素で循環型の社会を築いていくことが、きわめて重要となっております。

鳩山総理は、昨年の就任直後の国連において、地球温暖化防止のための25%の削減目標を提唱しました。この目標を達成するためにも、国民にとって最も身近な取組として廃棄物の3Rを一層進めていくことが必要となっています。国、地方自治体、事業者、NPO/NGOなどの連携・協力の下、廃棄物リサイクル行政の原点である環境の保全をしっかり確保しつつ、地域社会や経済の構造を大きく変革し、資源やエネルギー効率の高い経済社会を世界に先駆けて実現していかなければなりません。

このような状況を踏まえ、平成22年度予算（案）においては、行政刷新会議の事業仕分けを踏まえ、厳しい財政事情の中での編成となりましたが、①循環市場の拡大と循環産業の育成等を通じて、3Rの戦略的な高度化を図っていくこと、②地域での循環型社会づくりの活性化とともに我が国の優れた循環技術の海外展開にもつながるよう、地域循環圏の形成やアジアにおける適切な循環の確保を図っていくこと、③安全・安心な廃棄物処理・リサイクルを推進し、国内の循環型社会の底上げを図っていくこと、等の重点課題の取り組みについて、必要な経費を計上したところです。

また、国民の安全・安心な暮らしと円滑な経済活動にとっての基幹的インフラである廃棄物処理施設については、その老朽化が全国的な課題となってきている状況を踏まえ、ストックマネジメント手法による長寿命化計画の策定を通じた既存施設の延命化、あるいは、処理施設の稼働に伴って排出されるCO_2の削減に資する施設の整備を促進していくこととしています。

さらに、合併処理浄化槽については、その整備促進に全力をあげて取り組むとともに、単独処理浄化槽の転換、低炭素型の浄化槽の整備について引き続き促進していくこととしています。

環境省としては、これらにより更に積極的、効果的な施策を推進してまいりたいと考えています。

また、廃棄物の適正処理の確保と適正な循環的利用の促進を巡る今日の諸課題に的確に対応していくため、一昨年来､中央環境審議会において､廃棄物の排出抑制、適正処理等の促進方策について総合的に議論をいただいてきたところです。この審議結果の取りまとめを踏まえ、今年の通常国会での廃棄物処理法の改正を目指し、具体的な検討を進めてまいります。

ここでは、新しい年の施策の一端をご紹介させていただきました。大臣、副大臣、大臣政務官の下、これら課題の一つ一つに全力を傾注していく所存ですので、関係する皆様方のご理解とご協力を是非ともお願いします。本年が皆様にとってよい年となるようご祈念申し上げて、私の年頭のご挨拶とさせていただきます。